

野幌森林公園で4年間（2001-2004）にタヌキ激減の可能性
○平川浩文（森林総研・北海道支所）・佐々木尚子（釧路教育大）

野幌森林公園において2001年以降タヌキが激減した可能性を示すデータが得られたので紹介したい。このデータは私たちが2001年以来野幌森林公園で行ってきた自動撮影による野生生物調査の中で得られた。調査はいつでも自動撮影装置10台を用いて行ない、装置は林道を通る中大型動物を捉えるように林道沿いの立木に設置した。人の撮影を避けるために、装置は夜間（低照度時）のみ稼働するように設定した。

装置設置ヶ所および調査期間には各年で次のような違いがあった。装置設置ヶ所は2001年には公園北部・中部・南部のそれぞれ3, 3, 4ヶ所としたのに対し、2002年以降は公園南部の10ヶ所とした。また2001年には1回約4週間の調査を6月, 8月, 10月に1回ずつ行ったのに対して、2002年には7月から12月まで連続, 2003年と2004年には5月から12月まで連続で調査を行った。

装置の設置ヶ所や調査期間が各年同じでないために、タヌキの撮影頻度について次のような三通りの比較を行った。装置設置ヶ所・調査期間ともに同一であった2003年と2004年にかけてはそのまま比較を行った。装置の設置ヶ所は同一だが、調査期間が異なる2002年から2004年にかけては、2002年の調査期間（7/16-12/3）に合わせて比較を行った。装置の設置ヶ所および調査期間ともに異なる2001年と2002年以降の比較には、共通する林道（東6号線）について、2001年8月の調査期間（8/6-9/3）に合わせて比較を行った。

2003年-2004年の比較では、タヌキの撮影枚数が2003年に36枚であったのに対して、2004年は4枚であった。撮影事象をポアソン過程と見なし撮影頻度（枚数）の95%信頼区間を推定すると、2003年25.2-49.8枚, 2004年1.1-10.2枚となった。装置延べ稼働時間を用いて100稼働時間当たりの撮影頻度を算出すると、2003年0.16（0.11-0.22）枚, 2004年0.02（0.01-0.05）枚となり、両年の間には明確な差が認められた。

2002年-2004年の比較では、タヌキの撮影枚数が、2002年に105枚であったのに対して、2003年は16枚, 2004年は4枚であった。上と同様に100稼働時間当たりの撮影頻度を算出すると、2002年0.66（0.54-0.80）枚, 2003年0.10（0.06-0.16）枚, 2004年0.03（0.01-0.06）枚となり、2002年と2003年の間にも大きな差が認められた。

2001年-2004年の比較では、100稼働時間当たりの撮影頻度が、2001年5.42（4.04-7.10）枚, 2002年0.78（0.41-1.33）枚, 2003年0.00（0.00-0.22）枚, 2004年0.12（0.01-0.42）枚となり、2001年と2002年の間にも大きな差が認められた。

以上の結果は、少なくとも公園南部において2001年から2004年にかけてタヌキが大幅に減少したことを示唆する。その理由については今後検討が必要である。

